



みやがわ のりみつ
宮川 徳光 議員

問 野良猫への苦情が多いが、現状把握と対策は。また、四万十市内には移動車による不妊治療手術を行っている活動がある。

中、繁殖した猫が野良猫化するケースも多い。猫については現状把握は、登録等の制度がないため、町内の飼育数や野良猫の数などは把握できていない。対策としては、周知啓発のほか、猫の不適切な飼育の情報が寄せられた場合などは、指導する立場の県と情報共有し、必要に応じて訪問に同行す

るなど、連携協力した対応をしている。町としては、今後も動物愛護法に規定の通り所有者が適正に飼育管理することを原則としながらも、それを後押しする対応をしていく。また、移動車による不妊治療手術については、現状行っていないが、参考にして今後の施策に生かしていきたい。

野良猫対策

移動車で不妊手術 利用は現状ないが今後の施策に

答 宮川 住民課長

り、四万十市、宿毛市、土佐清水市などが利用していると聞くが、当町の利用状況は。

犬や猫などについては、動物の愛護及び管理に関する法律で、所有者が適正に飼育管理することとして規定されている。

町も、適正な飼育に向け、告知放送や公式ホームページなどで周知啓発を図っている状況。

しかし、猫については、放し飼いであることや適切な繁殖防止措置がとられない場合もあり、その



飼い主の没後、お隣さんから餌をもらう猫たち。子猫の姿も見える。(6月25日、奥湊川)

入野松原保全

町管理松原 松枯れ状況は対策を変更し被害減少へ

問 昨年9月定例会にて一般質問した入野松原の支障木伐採について、今後の予定などを問う。また、町管理の松原の松くい虫被害の状況と対策は。

答 今西 海洋森林課長

支障木伐採については、昨年度、入野松原保全推進協議会の要望を受け、浜の宮地区等にて倒木の

一部伐採を実施した。今後の予定は、現時点では国、県からは来てないが、本町を含めた3者が、住環境改善に向けて、これまで以上に現地状況を共有し、同保存推進協議会を通じた要望への対応を引き続き進めたい。また、町管理の入野松原の松喰い虫被害は、平成25年度以降、立ち枯れ

が目立ち始め令和2年度にかけて枯れ続けた。

この被害への基本的な対策は、平成30年度までは薬剤散布と被害木の伐採、現地での焼却としていたが、更なる被害拡大を受け、伐採した全被害木を場外に搬出しての焼却処分へと変更。

【その他の質問】
行政運営について

また、専門家の対策検討で、害虫マダラカミキリの羽化が、従来の認識の6月よりも早い4月上旬から5月上旬と確認。

これらを受け、地元ラッキョウ部会の皆様の理解と協力のもと、薬剤散布を5月に早めている。これらの対策で、伐倒本数が、令和元年度の2528本から年々減少し、令和4年度は114本となっている。



松枯れ薬剤散布の一コマ。近年植え付けた苗木も順調に育っている。(6月23日、町管理の入野松原)